

インフルエンザニュース

東京都立衛生研究所

目次

I 基礎知識

13年度インフルエンザ標語／インフルエンザの予防には／インフルエンザにかかったら

II 流行状況

患者発生状況／東京都公立学校の学級閉鎖状況／ウイルス検出状況

III 専門家向け情報

インフルエンザウイルスの検査法

I 基礎知識

1 13年度インフルエンザ標語

厚生労働省は本年度の標語「**予防接種**という**選択**」を掲げて、今冬（平成13年11月から平成14年3月）のインフルエンザ対策に取り組むことになりました。

2 インフルエンザの予防には

- ・流行時期には人込みをさけましょう。
- ・外出時のマスク、帰宅時のうがいや手洗いは忘れずに。
- ・室内は、適度な温度と湿度の維持を心掛けましょう。
- ・バランスの良い食事を摂るように、気を配りましょう。
- ・疲労や睡眠不足は禁物です。
- ・高齢者におけるワクチン接種は重症化、死亡を防ぐ点で効果があります。なお、予防接種は、かかりつけ医と相談しましょう。

東京都立衛生研究所感染症情報センター

www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/

厚生労働省

www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所感染症情報センター

idsc.nih.go.jp/index-j.html

インフルエンザホームページ

influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/

【インフルエンザ相談ホットライン】

開設時期：

平成13年11月12日～

平成14年3月29日迄

対応日時：月曜日～金曜日（祝日除く）

9:00～17:00

電話番号：03-5285-1231

FAX番号：03-5285-1233

e-mail：influenza@nih.go.jp

3 インフルエンザにかかったら

- ・単なるかぜと軽く考えず、早めに医療機関で受診し、治療を受けましょう。
- ・部屋の湿度を保ちましょう。
- ・安静と休養が肝腎です。睡眠は十分に。
- ・水分は十分に補給しましょう。

II 流行状況

1 患者発生状況

1月7日から1月13日までの都内の患者報告数は87人で、先週に比べ増加しました。

全国の報告数も6754人で、先週の4倍近く増加しました。

2 東京都公立学校の学級閉鎖状況

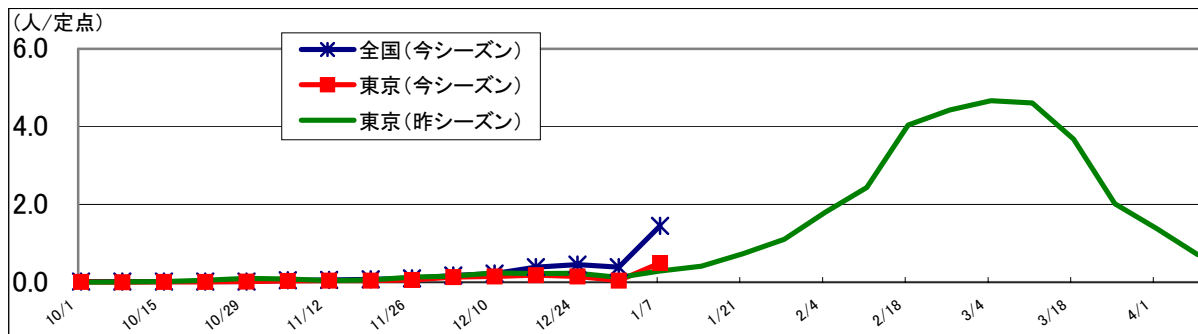
| | 小学校 | その他 |
|-----------|-----|-----|
| 2001年12月計 | 2 | 0 |
| 2002年1月計 | 2 | 0 |
| 累計 | 4 | 0 |

3 ウイルスの検出状況

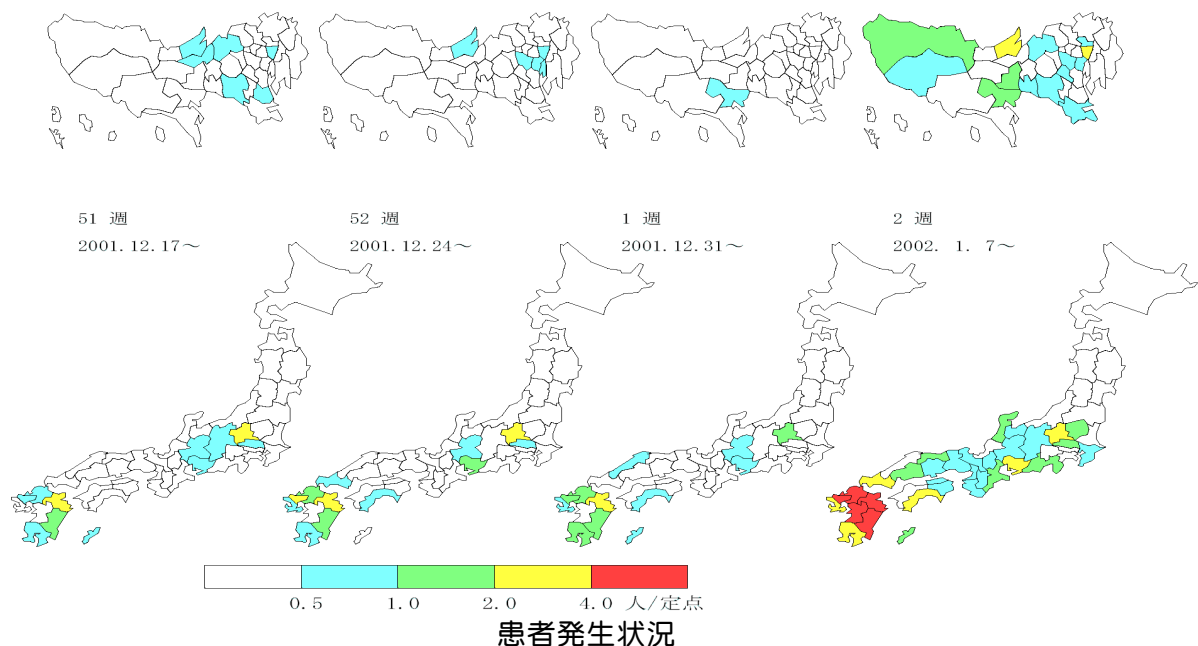
都内では、A型インフルエンザウイルスが46週（品川区）、50週（台東区）、51週（武蔵村山市：A香港型）、52週（大田区）、

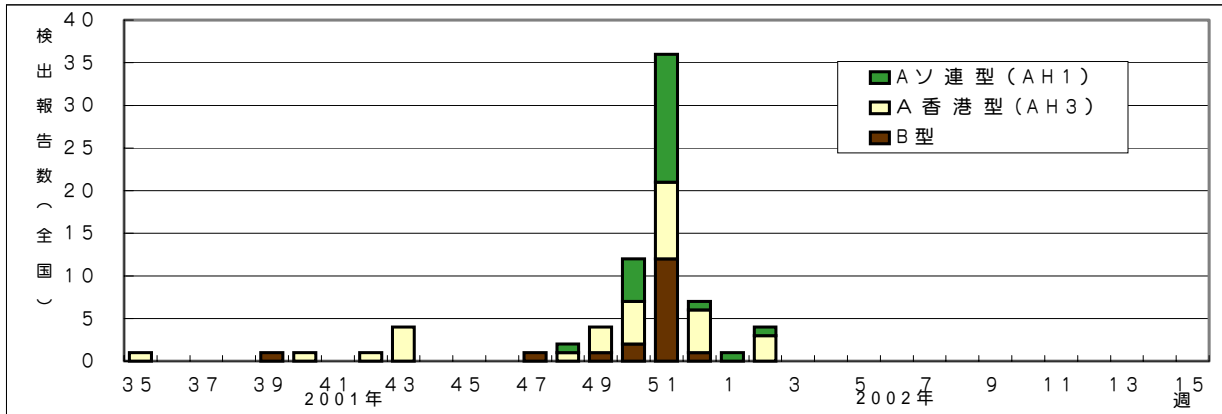
2週（立川市：A香港型、台東区、大田区、狛江調布市、多摩東村山市）に、B型インフルエンザウイルスが47週（武蔵村山市）、48週（台東区）、50週（台東区）、51週（台東区、狛江調布市）、52週（台東区）、2週（台東区、多摩東村山市）に、それぞれ定点医療機関での迅速診断キットや衛生研究所におけるPCR法によって検出されました。

国内では、各地から、ウイルス検出が報告されています。また、集団発生では、51週の高知県の事例からはA型（Aソ連型）が、同じく51週の名古屋市の事例からはB型インフルエンザウイルスが検出されました（国立感染症研究所、感染症週報より）。



(人/定点)：患者報告数を定点医療機関数（東京都178ヶ所、全国約5,000ヶ所）で除算した数値です。





全国ウイルス分離・検出報告数 (地方衛生研究所において分離・検出したもののみ)

III 専門家向け情報

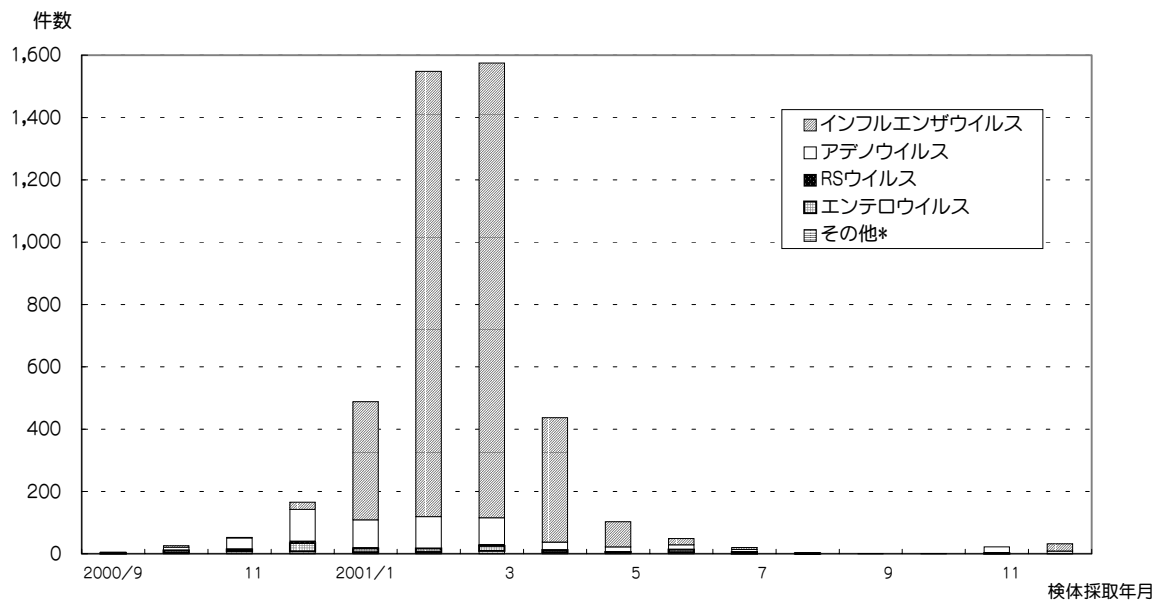
1 インフルエンザウイルスの検査法

インフルエンザと似た症状を起こすウイルスは多数あるので(図1)、インフルエンザであることを確認するには検査が必要です。

インフルエンザの検査はウイルス検査と抗体検査に大別され、前者はインフルエンザウイルスを検出するもので、後者は感染者の体内のインフルエンザウイルス特異抗体を検出するものです。

ウイルスの検査には抗原ELISA法、PCR法、ウイルス分離法などがあり、それぞれ特徴があります(表1)。

抗体検査では過去にインフルエンザにかかったことのある人は既にインフルエンザウイルスに対する抗体を持っています。そこで、そのシーズンにインフルエンザにかかったことの判断は、インフルエンザの急性期と、回復期(感染10~14日後)の抗体価を比べ、回復期の抗体価が上昇した場合に陽性と判定します。そのためインフルエンザの抗体検査では急性期と回復期の2回血液を採取し、2本の血液中の特異抗体を測定し抗体価を比較する必要があります。



* パラインフルエンザウイルス, ムンプスウイルス, 麻疹ウイルス, ポリオウイルス, ロタウイルス, サルモネラ菌など

図1 インフルエンザおよびインフルエンザ様疾患から検出された病原体 (国立感染症研究所感染症検査情報より)

表1 インフルエンザの検査法と特徴

| 検査法 | 検査の原理 | 感度 (検出に必要な ウイルス量) | 検査に要 する時間 時期 | 特徴 |
|----------------------|---------------------------------------|-------------------------|--------------------|---|
| 抗原ELISA法 | 検体中のインフルエンザウイルスの抗原を、そのまま特異的な抗体で検出 | 数万個 | 20~30分 | <ul style="list-style-type: none"> •迅速 •非特異反応あり |
| PCR法 | 検体中のインフルエンザウイルスの遺伝子を、数千万倍に増やして検出 | 数十個 | 数日 | <ul style="list-style-type: none"> •比較的迅速 •高感度 |
| ウイルス分離法 (ウイルス培養法) | 検体中のインフルエンザウイルスを鶏卵や細胞中で増やし、ウイルスの性質を確認 | 数百万~数千万個 | 1~2週間 | <ul style="list-style-type: none"> •時間がかかる •ウイルスの様々な性質が調べられる。 |
| 抗体検査法 | 感染 10~14 日後に上昇する特異抗体を測定 | | 回復期血液採取後 | <ul style="list-style-type: none"> •時間がかかる •良好な検体採取ができ、信頼性が高い |

編集・発行 東京都立衛生研究所

〒169-0073

東京都新宿区百人町 3-24-1

事務局 微生物部疫学情報室

Tel:03-3363-3213

Fax:03-5332-7365

Email:idsc@tokyo-eiken.go.jp

ホームページ:www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



古紙配合率70%再生紙を使用しています